

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	1691000010		
法人名	株式会社 北陸福社会		
事業所名	はびねすグループホーム福野		
所在地	富山県南砺市二日町2077-7		
自己評価作成日	令和7年12月15日	評価結果市町村受理日	令和8年2月4日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

<p>職員間の連携を重視し、互いを思いやり足りない部分を補いながら日々の業務に努めている。その結果利用者が穏やかな環境の中、安心してその人らしく過ごすための支援をチームとして実施できていると思います。また、施設内の清潔保持に努めているため常に気持ち良く過ごすことができています。</p>

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先 https://www.kaiqokensaku.mhlw.go.jp/16/index.php?action_kouhyou_detail_022_kihon=true&JigyosyoCd=1691000010-00&ServiceCd=320

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	社会福祉法人富山県社会福祉協議会		
所在地	富山県富山市安住町5番21号		
訪問調査日	令和8年1月13日		

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

<ul style="list-style-type: none"> ・法人の社訓を理念とし「挨拶・気配り・思いやり」を廊下に掲示、職員は把握し、目標として共有している。管理者と職員はユニットをつなぐ廊下に連絡帳を設置し、いつでも記入し確認できるようにしている。 ・食事は献立、買い物、調理まですべて職員が行い、利用者の好みなど考慮した食事が提供されている。また、敷地内の畑で野菜を育て、収穫の喜びや季節を感じられるよう努めている。 ・清潔感のある生活空間の中で、ゆったりとした日常生活を過ごしている。
--

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印		項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	<ol style="list-style-type: none"> 1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんど掴んでいない 	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○	<ol style="list-style-type: none"> 1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○	<ol style="list-style-type: none"> 1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない 	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○	<ol style="list-style-type: none"> 1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	<ol style="list-style-type: none"> 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない 	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	<ol style="list-style-type: none"> 1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○	<ol style="list-style-type: none"> 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない 	66	職員は、活き活きと働いている (参考項目:11,12)	○	<ol style="list-style-type: none"> 1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○	<ol style="list-style-type: none"> 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない 	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	<ol style="list-style-type: none"> 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○	<ol style="list-style-type: none"> 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない 	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	<ol style="list-style-type: none"> 1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	○	<ol style="list-style-type: none"> 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない 				

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	「挨拶・気配り・思いやり」の理念を職員間でしっかりと共有し実践している。	法人理念は「私たちが大切にしている事」7項目に加えて、社訓「挨拶・気配り・思いやり」を念頭に置いてケアにあたっている。事業所内の掲示や日々の働きかけはあるが、十分とは言えない。	法人理念及び社訓を玄関等に掲示し、家族や地域住民にも明示することを期待したい。
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	地域の児童クラブの子供達より頂いたメッセージカードをホールの掲示板に貼り喜んで頂いている。	地域の「江ざらい」への参加や、回覧板で地域の情報を得ている。年に1回、地域の子どもたちから利用者にメッセージカードが届けられている。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	14歳の挑戦や、福祉課の高校生の実習を受け入れる事により認知症への理解を深めて頂いている。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	利用者家族・区長・地域包括支援センターより参加頂き、現状報告やサービス向上に向けての意見交換の場を設けている。	2ヶ月ごとに運営推進会議が開かれ、家族代表、地区区長、地域包括支援センター職員の出席がある。	事業所として会議の重要性、必要性を大切にして、会議構成員の拡大や議題の内容、結果報告の方法等について検討されることに期待したい。
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	出来る限り地域での会議等に参加し交流を深める事で協力関係を築けるよう努めている。	市が開催するケア会議に出席して、介護情報や各種研修を受け、事業所運営や職員教育に役立てている。日頃、相談事項や連絡事項があれば、緊密に連絡を取っている。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	3か月に1度身体拘束禁止委員会を実施し禁止の対象となる行為についての理解に努めている。玄関は基本的には施錠している。	職員は新規採用者を含め、身体拘束禁止項目への理解を深めている。日々のケアにも、利用者の立場になって行うよう、職員全体で取り組んでいる。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	管理者・職員共に虐待防止を心がけ日々の業務に努めている。		
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	勉強会の一環として成年後見人制度についての資料を作成し職員の知識を深める機会を設けている。実際に活用されている家族もある。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約の際は、利用者や家族の不安や疑問に向き合い理解・納得されるよう十分な説明を行なうよう努めている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	個別の通信やホーム新聞・食事たよりをお送りする事でホームでの様子をお伝えしている。家族からの意見や要望には随時対応している。	管理者は家族とは電話やメールで連絡することが多くある。毎月の個別通信も家族に安心感を与えている。	感染防止対応の観点から、家族の面会方法に制約がある。面会の緩和を検討し、利用者と家族における喜びの機会や深まりを期待したい。
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	管理者は常に職員の意見に耳を傾け、より良いサービス提供が行われるよう随時話し合っている。	管理者と職員が面談する機会を、年1回程度設けている。日常のケアをする中で、いつでも相談に応じたり、話しやすい雰囲気づくりを心がけ、働きやすい環境づくりに努めている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	代表者は個々の努力や実績も考慮し、各事情に合わせて労働時間を配慮する等、働きやすい職場環境の整備に努めている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	職員は積極的に研修に参加できており、認知症実践者研修を修了している職員も多く、個々のスキルアップに貢献している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	可能な限り地域の研修会に参加し、同業者との交流を深め意見交換する事で、サービスの質を向上させるよう努めている。		
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	本人の不安や困りごとに十分耳を傾け、信頼関係を築きながらより良いサービス提供に努めている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	家族との話し合いにおいて、不安や要望を理解し安心して任せて頂けるような信頼関係を築けるよう努めている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	本人・家族からの十分なヒアリングを実施し、必要な支援を的確に見極められるよう努めている。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	簡単な軽作業等、本人が出来る事は手伝って頂くなど、互いに助け合う気持ちを大切にしている。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	利用者の情報を共有し、その都度必要とされる支援を相談できる関係が築けている。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	家族からの要望や利用者からの要望があれば面会の場を設けているが、外部との接触が少ない為施設内での職員や利用者間の馴染みの関係を大切にしている。	「利用者と職員は最も身近な関係【馴染みの関係】」と捉え、職員は利用者寄り添うことを心がけて、ケアにあたっている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	利用者の性格や身体の状態を把握し、互いにより良い関係性を築けるよう座席やレクリエーションの提供を考えている。		
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	サービスが終了しても、相談・支援が出来る体制を整えている。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	日々のケアを通し、個々の思いや意向は把握し職員間での情報共有にも努めている。	利用者が意向や希望を表現された際、職員は申し送り時や業務日誌に記録することで、共有している。実践に向け家族と相談等して不安なく、安心して過ごせるよう努めている。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	本人・家族からの情報を基に職員間で情報を共有し把握に努めている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	日々のケアを通し個々の現状把握はできている。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	本人・家族の思いを尊重しつつ、日々関わっている職員の意見も取り入れながらケアプランを作成している。	介護計画は6か月毎に更新し、計画作成者は毎日のケアプラン実践確認表や、管理者、担当職員の毎月のモニタリング等を確認して作成している。利用者、家族への意向の確認は訪問時や電話等で確認を行っている。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	日々の様子は個別に記録し、職員間の情報共有に努めている。またケアプラン実践確認表を作成し毎日チェックする事で介護計画の見直しに活かすことが出来ている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	本人・家族の状況を把握し、その都度柔軟な対応ができるよう体制作りにも努めている。		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	毎月の訪問診療において健康管理ができており、必要に応じて理美容サービスを利用する事で心身の健康に良い影響を及ぼすことが出来る。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	本人・家族の希望を最優先に主治医と事業所の信頼関係を築き受診や訪問診療等、適切な医療を受けられるよう支援している。	入所時に利用者、家族にかかりつけ医について説明、確認を行っている。継続の方は家族の協力にて受診をお願いし、事業所での様子は文書にして渡している。月1回の協力医の訪問診療と看護師により日頃の健康管理を行い、体調の変化や緊急時にはいつでも相談できる体制になっている。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	職員は常に利用者の健康状態を把握し、変化があれば看護師に報告・相談し、必要があればホーム医や主治医と連携し適切な処置を受けられるようにしている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院時には病院との連携を図り情報交換に努め、利用者が安心して治療できるよう関係性は築けている。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所のできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	入所される時点で重度化した場合の対応については説明し理解して頂いており、その場合は事業所としてできる限りの支援に努める。	契約時に「重度化した場合における対応および看取りに関する指針」を用いて利用者、家族に説明を行い、同意書にて確認している。重度化については、食事ができなくなった時点で事業所は家族に相談を行い、利用者本人の状況に応じた適切な場所の提案等、支援している。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	緊要要請時のマニュアルは作成しており職員間でも共有している。応急処置等は日々の業務で実践している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	運営推進会議や地域の研修において何度か課題として出ているが、利用者の避難方法を職員全員が身につけるまでには至っておらず、しっかりと計画を作成し職員が把握できるよう努める。	BCP(業務継続計画)や備蓄品は法人全体で整備されている。年2回の火災避難訓練は消防署の立ち合いで利用者と共に実践している。自然災害発生時の指定避難場所への移動については、運営推進会議においても課題とし検討している。	自然災害の対応について、法人のBCPを基に事業所に合ったBCP等を作成する等、職員間での検討や地域の協力体制の構築に期待したい。
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	一人一人の人格を尊重できるよう職員は日々言動に注意しケアに努めている。	排泄等の声掛けや介助時に本人のプライバシーや尊厳を損ねないように配慮している。「言葉の言い換え表」を掲示し、管理者、職員は注意してケアに努めている。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	利用者が思いや希望を伝えやすい存在でいられるよう、職員は日々信頼関係を築く努力を怠らない。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	利用者の思い、その日の体調等個々の状態を理解しその方のペースで過ごされるよう臨機応変に対応している。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	必要に応じて理美容サービスを提供したり、好みを考慮し洋服選びや整容の支援をしている。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	旬の食材を使用し、職員が毎食手作りしている温かい物を提供する事ができる。	食事は献立から買い出し、調理を職員が行い毎日、3食提供している。食材の一部は敷地内の畑で利用者と収穫したものを使用している。行事・誕生日の特別食やおやつは、利用者と一緒に手作りし、利用者はテーブル拭きやお茶を入れるなどの手伝いも行っている。食事は一人ひとりお盆を使わず提供している。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	個々の状態に合わせて食事量や形態を工夫し、摂取量を記録している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後口腔ケアを行い、本人の能力に合わせて見守り又は介助をし清潔保持に努めている。		
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	排泄チェック表を使用する事で、個々排泄パターンを把握し声掛け・誘導する事で自立に向けた支援を行っている。	トイレは広く、移動スペースが確保できている。自立の方もおられるが、見守りや介助を行い、昼夜ともトイレ、ポータブルトイレでの排泄支援を行っている。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	運動不足の解消の為、毎朝ラジオ体操を実施し参加を促すと共に、食物繊維を多く摂取できるよう献立も工夫している。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	その日の体調を考慮しつつ、2回/週程度で必要に応じ職員が見守り、介助し1人ずつ安全にゆったりと入浴できる。	浴室は一般浴で脱衣室のスペースが広く確保されている。午後からの入浴で週2回程度入れるようにしているが、利用者の体調や気分で入れない方は清拭等に変更し、清潔保持を図っている。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	昼夜逆転を防ぎ生活リズムを整えながら夜間の良眠へと繋がるようサポートしている。体調を考慮し必要であればその都度休息がとれるようにしている。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	誤薬のないよう厳重に確認し正しく服薬できるよう確実な見守り・介助を徹底している。処方に変化があればその後の体調変化がないか等注意を払っている。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	個々の能力・嗜好・生活歴に応じたレクリエーションの提供や軽作業を手伝って頂くことにより、楽しみや役割を見出せるよう支援している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	感染症が慢延している期間は出来るだけ外出を控えて頂いているが、希望があれば家族の協力を得て外出されている。	天候に合わせ、事業所の駐車場に出て散歩等を行ったり、畑の見守りや収穫を行っている。外出の希望があった場合は家族に相談してお願いしている。	感染症の防止のため、面会や外出の制限を設けているが、ドライブや敷地内での行事、近隣への散歩など工夫されることを期待したい。
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	基本的に金銭の管理は家族にお任せしており、購入希望の物品等があればお預かりしている。お小遣いの中で購入できるようにしている。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	自身で携帯電話を所持されている方もおられますし、希望があれば電話や手紙でのやり取りが出来るよう支援している。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	1日の大半を過ごされるホールは日当たりも良く季節を感じられる掲示物や利用者が作成した塗り絵等も掲示しており、落ち着いた空間となっている。また施設内は常に清潔が保たれており、居心地良く過ごせる。	共有空間は吹き抜けの天井で明るく、開放感がある。食事や作業が行えるテーブル席や、テレビ前にソファを設置し、くつろげる場所を確保している。作業時、テーブル席では自由に過ごすことができる。壁には季節に合わせた作品を掲示している。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	ホールにはソファもあり、気の合う利用者同士が並んでテレビを観たり談話を楽しむこともできる。各居室は個室となっている為、1人でゆっくり過ごすこともできる。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	自宅で使い慣れた物や思い出の品を持参しておられたり、テレビを設置しのんびりと好きな番組を楽しまれている。	居室前には大きく名前が書かれた表札が掲げられている。室内には洗面台とベッドが設置され、大きな窓からの採光があり、掃除や室内換気には窓の開放を行っている。洗面台を使用し各自、洗顔や食後の歯磨きを行っている。TVや家具は使い慣れたものを持参し、配置している。掃除は職員と一緒に、清潔に保たれている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	個々の身体能力を考慮し居室や座席を決めさせて頂き安全に生活できる環境を整えている。		

目標達成計画

作成日: 令和 8 年 2 月 4 日

目標達成計画は、自己評価及び外部評価結果をもとに職員一同で次のステップへ向けて取り組む目標について話し合います。
目標が一つも無かったり、逆に目標をたくさん掲げすぎて課題が焦点化できなくならないよう、事業所の現在のレベルに合わせた目標水準を考えながら、優先して取り組む具体的な計画を記入します。

【目標達成計画】					
優先順位	項目番号	現状における問題点、課題	目標	目標達成に向けた具体的な取り組み内容	目標達成に要する期間
1	49	感染症が慢延している期間は出来るだけ外出を控えて頂いている。	日光や外気に触れる機会を増やし、気分転換や季節を感じてもらえるよう努める。	天候や体調面を考慮しつつ、1日の中でも外に出る機会を設け、風景を眺めたり敷地内の畑の野菜を見たり収穫する等の楽しみを作る。	3ヶ月
2	4	2か月に1度、運営推進会議を実施しているが、参加されたご家族以外は内容が分からない。	どのご家族にも運営推進会議が実施されている事を知って頂き内容を報告する。	ご家族にお送りしているホーム便りに運営推進会議が実施された日付けや内容を記載し報告する。	3ヶ月
3					ヶ月
4					ヶ月
5					ヶ月

注) 項目の欄については、自己評価項目のNo.を記入して下さい。項目数が足りない場合は、行を挿入してください。

(別紙4(3))

サービス評価の実施と活用状況(振り返り)

サービス評価の振り返りでは、今回の事業所の取り組み状況について振り返ります。「目標達成計画」を作成した時点で記入します。

【サービス評価の実施と活かし方についての振り返り】	
実施段階	取 り 組 ん だ 内 容 (↓ 該当するものすべてに○印)
1 サービス評価の事前準備	<input type="checkbox"/> ①運営者、管理者、職員でサービス評価の意義について話し合った
	<input type="checkbox"/> ②利用者へサービス評価について説明した
	<input type="radio"/> ③利用者家族へサービス評価や家族アンケートのねらいを説明し、協力をお願いした
	<input type="checkbox"/> ④運営推進会議でサービス評価の説明とともに、どのように評価機関を選択したか、について報告した
	<input type="checkbox"/> ⑤その他()
2 自己評価の実施	<input type="checkbox"/> ①自己評価を職員全員が実施した
	<input type="checkbox"/> ②前回のサービス評価で掲げた目標の達成状況について、職員全員で話し合った
	<input type="radio"/> ③自己評価結果をもとに職員全員で事業所の現状と次のステップに向けた具体的な目標について話し合った
	<input type="checkbox"/> ④評価項目を通じて自分たちのめざす良質なケアサービスについて話し合い、意識統一を図った
	<input type="checkbox"/> ⑤その他()
3 外部評価(訪問調査当日)	<input type="radio"/> ①普段の現場の具体を見てもらったり、ヒアリングで日頃の実践内容を聞いてもらった
	<input type="checkbox"/> ②評価項目のねらいをふまえて、評価調査員と率直に意見交換ができた
	<input type="checkbox"/> ③対話から、事業所の努力・工夫しているところを確認したり、次のステップに向けた努力目標等の気づきを得た
	<input type="checkbox"/> ④その他()
4 評価結果(自己評価、外部評価)の公開	<input type="checkbox"/> ①運営者、職員全員で外部評価の結果について話し合った
	<input type="checkbox"/> ②利用者家族に評価結果を報告し、その内容について話し合った
	<input type="checkbox"/> ③市区町村へ評価結果を提出し、現場の状況を話し合った
	<input type="radio"/> ④運営推進会議で評価結果を報告し、その内容について話し合った
	<input type="checkbox"/> ⑤その他()
5 サービス評価の活用	<input type="checkbox"/> ①職員全員で次のステップに向けた目標を話し合い、「目標達成計画」を作成した
	<input type="checkbox"/> ②「目標達成計画」を利用者、利用者家族や運営推進会議で説明し、協力やモニター依頼した(する)
	<input type="radio"/> ③「目標達成計画」を市町村へ説明、提出した(する)
	<input type="radio"/> ④「目標達成計画」に則り、目標をめざして取り組んだ(取り組む)
	<input type="checkbox"/> ⑤その他()